



# まる ○福連携2022

一般社団法人福祉システム北海道

高橋 銀司代表理事

異業種との対話から福祉を探る

□連載2□

## 写真整理アドバイザー 上野 かおりさん



**うえの・かおり** 1981年、旭川市出身。過去にパソコントラブルで自身の子供の写真が消えた失敗をきっかけに、写真整理アドバイザー上級(一般社団法人写真整理協会認定)を取得。主婦業と並行しながら写真整理の大切さや楽しさを伝える講座講師担当や体験会を開催、訪問事業も展開中。

### ●写真整理アドバイザーという仕事について教えてください。

その名の通り、写真整理のアドバイスですが、決まっている仕事内容はありません。一般社団法人写真整理協会が認定する「写真整理アドバイザー」という資格です。

### ●職業の名前でもあり、資格の名前でもある、ということですか。

はい。この協会のモットーは「写真整理をテーマとした活動を、自由にしてい(趣味でも仕事でもいい)」なので、仕事内容も自分で考えています。趣味で撮影した写真を整理したいが、知識・手段がないので、それを学ぶためだけに資格を取る方もいます。

### ●実際にどんなアドバイスをしますか？

写真整理について質問・相談がある方を募集します。例えば「古い写真が押し入れに段ボール10箱分たまっている」とか、「自分が年老いてきて終活をするが、写真だけは人にお譲りできない。それが精神的にも物理的にも負担」という悩みがあります。どう整理をしたらいいですか？ という相談に対してアドバイスします。最近ではスマートフォンに写真がたくさんたまっていて困っている、とりあえず写真をこのスマホから消したいけど、どうしたらいい？ という相談もあります。

「写真」というキーワードだけで、いろんな話が出てきます。だから、大きく言えばデジタルデータの写真と、アナログ(紙・アルバム)の写真と大きく2つに分けて、答えます。他にも、実際にお客さまの写真を整理する作業サポートや、作業の代行も行っています。

### ●写真整理の完成形とはどういう状態ですか？

「私の写真を整理したらどうなりますか」と質問されますが、正解はないです。いろんな見本をお見せしてどれがいいか選んでいただいたら、それに向かって一緒に整理しますが、イメージできない場合、小さく薄いアルバム1冊にまとめることを提案します。本みたいな「フォトブック」という形です。冊子ではなくて、バラバラに残したいという方には、昔ながらのポケットタイプのアルバムを改めて1、2冊買って、その中だけに収まる写真整理を提案したりもします。成人したお子さんなどご家族に託せるよう残したいという場合は、古い写真をあえてデジタル化、データ化して整理して渡しています。

### ●紙媒体である写真をスキャンしてデータにするということですか。

はい。「データ化」と分かりやすく言っています。複製も可能ですし、紙媒体がなくなったとしても再び印刷することが可能です。デジタル世代でしたらLINEやメールで送る際にやりとりも楽になります。データ化する方と、紙媒体として残す方と、さまざまなゴールがあります。どちらを選んでも「量が減る」という点は共通しています。

### ●上野さんがこの仕事を見つけたきっかけ、やるうと思ったきっかけを教えてください。

今思い出してもすごく心が痛い、悲しい思いをしたことがきっかけです。私の子どもたちがまだ5~6歳の時にデジカメやスマホで写真をたくさん撮っていました。私はパソコンを使う

のが好きだったので、ハードディスクに残したり、祖父母達にDVDで送っていたのです。ところが突然、そのハードディスクが壊れました。そこには写真以外にも音楽データ等、いろいろ入れていましたが、一番のショックは写真が消えたことでした。子供の写真や結婚前後のものもあったので。もうショックで立ち直れないかと思いましたが、実家に送っていた写真やDVDと、主人がパソコン復元ソフトを使えたおかげで何とか半分くらい復元できました。

ないデータ、消えてしまったデータもありますが、写真のバックアップをDVDとハードディスクの2カ所に保存していたので半分は失わずに済みました。「子供の1年間」等のフォトブックも作っていて、印刷された写真も残っていました。この時は趣味レベルでしたが、写真整理をしていたおかげで助かったので、私のようにデータが消えてしまって悲しい思いをする人を増やしたくないと思い、写真の管理や保存の仕事を探しました。写真整理アドバイザーと名乗っている方のブログを見て、この仕事をしようと資格を取りました。

### ●写真整理アドバイザーという資格は今回初めて聞きました。写真の整理は大事ですね。アドバイザーの仕事で大切にしている点は？

安心していただくことです。「撮りっぱなしだからデータが消えたらどうしよう」とか、「こんなに大量にあるのにどうしよう」という悩みの方にも、まずは「大丈夫ですよ」と答えています。まとめれば整理されますし、データに残せば複製もできるので安心です。お客さまの安心する姿を想像してアドバイスします。

デジタルの知識が人それぞれ違うので、パソコンが不得意という方も、得意という方も、その方に寄り添ったペースが大事です。無理に新しい知識を覚えていただくのは大変なので、私の方から寄り添いながら、安心感のあるアドバイスを心掛けています。

### ●写真整理アドバイザーの仕事で、福祉とか介護を感じる瞬間はありますか？

資格取得の講習で言われたことが1つあります。自分自身の若い頃の写真を見ると、忘れていたことを思い出すことがあります。こうしたアプローチを回想法と呼んでいて、脳に刺激を与えますし、認知症の予防とまではいかなくとも、認知症のスピードを遅らせるそうです。写真整理は、その回想法に似ているところがあると感じます。写真整理はただ整理する、減らすだけでなく、見返すことを重視しています。見返すことで、コミュニケーション促進、脳への刺激、心の安定と充実、家族・仲間とのつながりや縁・愛情の再認識など、さまざまな可能性があると考えます。

個人のお宅と一緒に写真整理している時に、整理よりも写真を見て思い出話をする時間の方が長くなるくらい、お客さまは話が楽しいみた

**たかはし・ぎんじ** 1987年、小清水町出身。札幌市にある障害福祉事業所に勤めながら、福祉系大学院修士課程を修了。2022年4月から日本医療大総合福祉学部介護福祉マネジメント学科助教としても活動。介護福祉士、社会福祉士。

いです。「あなたはまだ生まれてなかった頃ね」と、モノクロ写真見ながら話していただいたり、「今みたいに物がなかったのよ」とか、当時の話がスラスラ出てくる。帰り際に「あなたと話せてよかったわ」と言われることも。写真整理は、本当にコミュニケーション手段の1つですね。

### ●読者である福祉・介護職にアドバイスをいただけますか。

1枚の写真から話は広がります。自分が写ってなくても、街並みを見て「あの時代はこんな風景だったね」「私の時代もこうだったわ」と思い出話をするレクリエーションができそうです。これも回想法かもしれないですが、大切にしている1枚を(自慢にならない程度に)見せ合ったり、思い出の品を出し合えば、当時を思い出したり、新たな話のきっかけになるのではないのでしょうか。

### ●それ、面白そうですね。

施設等に住まいを移す際には荷物が制限されますよね。小さいタイプのアルバムに自分のお気に入りの写真等を何枚か入れたりして、枕元に置いておけば楽しみにもなります。そういった使い方に適した「あんしんアルバム」と言って、防災手帳を兼ねたアルバムがあります。

全部で20ページぐらいあり、ご家族や大好きなペットと一緒に写真のほか、具合が悪い時にパッと見せられるような医療情報や、避難所に行くことになった場合の必要情報を載せることができます。私は「心のお守り」と呼んでいます。もしものときの備えになります。このあんしんアルバムを作製する際に過去の写真を見返します。それが写真整理にもつながります。

カード・キーホルダータイプもあって、災害時に使用する笛を付けたりできます。外に出掛けるときに持ち運びやすいタイプもあります。自宅での暮らしを続けているけれど認知症の症状があり、外出時に少し不安のある方が携帯していたら、警察が見つけてくれたこともありました。いろんなタイプがありますが、どれも写真が入っているのがポイントです。



▲写真の整理・保存方法について、さまざまな形を提案。フォトブックのほか、持ち運びやすい手帳タイプやカード・キーホルダータイプも▼



### 「○福連携プラス」、YouTube 配信中

高橋代表理事の連載する「○福連携」で過去に紹介した、異業種との対話を視聴できる動画チャンネル「○福連携プラス」がYouTubeで配信中。紙面に掲載し切れなかった対談の様子を15~20分前後にまとめている。視聴QRコードはコチラ。

□一般社団法人福祉システム北海道

▶ホームページ <https://fukushi-sh.net/> ▶問い合わせ先 [info@fukushi-sh.net](mailto:info@fukushi-sh.net)

